

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **登録実用新案公報 (U)**

(11)実用新案登録番号

第3045297号

(45)発行日 平成10年(1998)1月27日

(24)登録日 平成9年(1997)11月5日

(51)Int.Cl.⁸

B 6 5 D 71/28
B 6 5 B 17/02

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 5 D 71/00
B 6 5 B 17/02

技術表示箇所

D
A

評価書の請求 未請求 請求項の数3 O.L (全12頁)

(21)出願番号

実願平9-6114

(22)出願日

平成9年(1997)7月14日

(73)実用新案権者 000187460

松浦産業株式会社

香川県善通寺市上吉田町270番地の1

(72)考案者 松浦 公之

香川県善通寺市原田町土居1492-2

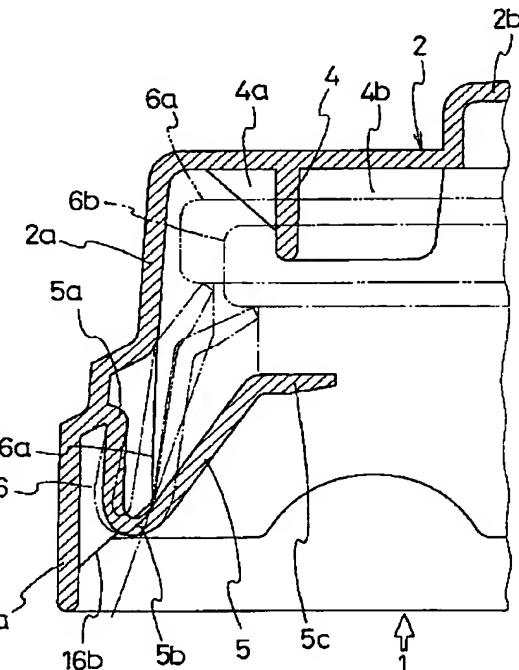
(74)代理人 弁理士 久保 司

(54)【考案の名称】 飲料缶等の運搬用保持具

(57)【要約】

【課題】 異なる缶径の飲料缶に対応するために係止片を設ける場合、飲料缶の装着、取り外しに大きな力を要せず、簡単かつ確実に着脱でき、装着後はしっかりと保持され強度的にも信頼でき、しかも、保持具の再使用が可能で、飲料缶の口縁の汚損も防止でき衛生的で、使用に際して指先を切るなどのおそれもなく安全であり、射出成形による一体成形が可能で容易に製造できる。

【解決手段】 薄板状の本体部1からキャップ状の保持部2を複数個連続して膨出し、該保持部2の内壁に折り曲げ自在な係止片5を突設し、キャップ状の保持部2で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片5は、下方に湾曲する根元の折り曲げ部5aと、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部5bを有し、さらに、前記U字形に湾曲する折り曲げ部5bの先端の立ち上がり部5cを略水平に折り曲げて全体を略S字形に形成する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部を有することを特徴とする飲料缶等の運搬用保持具。

【請求項2】 薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は、下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部とを有し、さらに、前記U字形に湾曲する折り曲げ部の先端の立ち上がり部を略水平に折り曲げて全体を略S字形にすることを特徴とする飲料缶等の運搬用保持具。

【請求項3】 薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁の周方向に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は、等間隔で8個突設され、下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部とを有し、さらに、前記U字形に湾曲する折り曲げ部の先端の立ち上がり部を略水平に折り曲げて全体を略S字形にすること

を特徴とする飲料缶等の運搬用保持具。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の飲料缶等の運搬用保持具の実施形態を示す底面図である。

【図2】本考案の飲料缶等の運搬用保持具の実施形態を示す平面図である。

【図3】本考案の飲料缶等の運搬用保持具の実施形態を示す図1のC-C線断面図である。

【図4】本考案の飲料缶等の運搬用保持具の実施形態を示す要部の縦断正面図である。

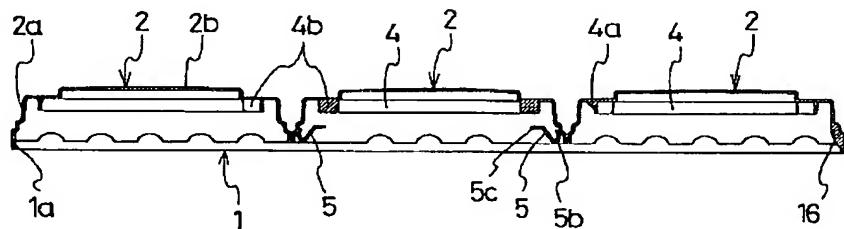
【図5】本考案の飲料缶等の運搬用保持具の成形工程を示し説明図である。

【図6】従来の飲料缶等の運搬用保持具の斜視図である。

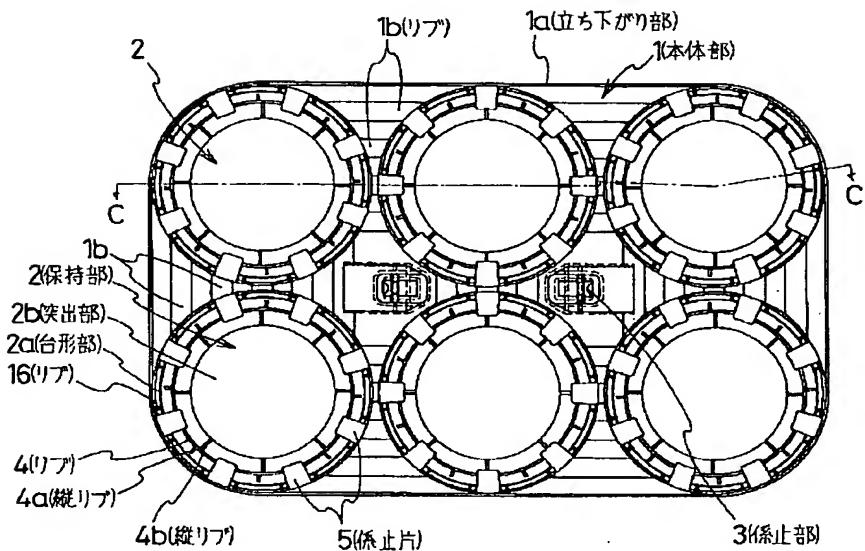
【符号の説明】

1…本体部	1 a…立ち下がり部
1 b…リブ	2…保持部
2 a…台形部	2 b…突出部
3…係止部	4…リブ
4 a, 4 b…縦リブ	5 a, 5 b…折り曲げ部
5…係止片	6, 6 a, 6 b…飲料缶
5 c…立ち上がり部	7…手提げバンド
7…手提げバンド	8, 8 a, 8 b, 8 c, 9…金型
10…薄板	11…保持部
12…係止部	13…手提げバンド
14…係止片	15…欠損部
16…リブ	16 a…垂直部
16 b…傾斜部	

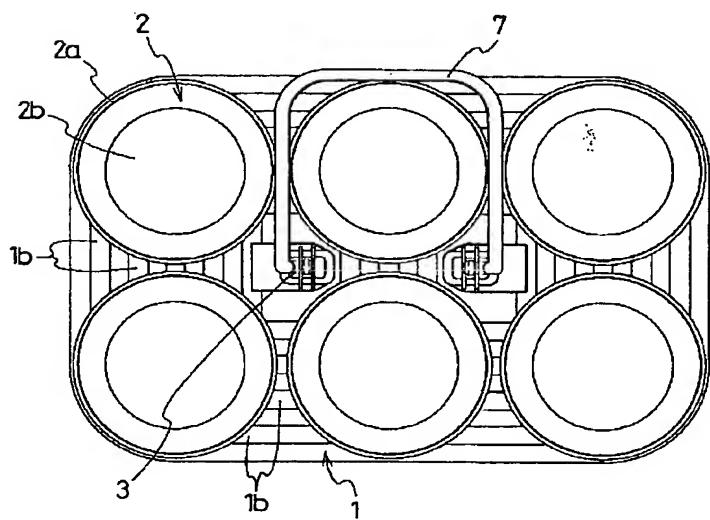
【図3】



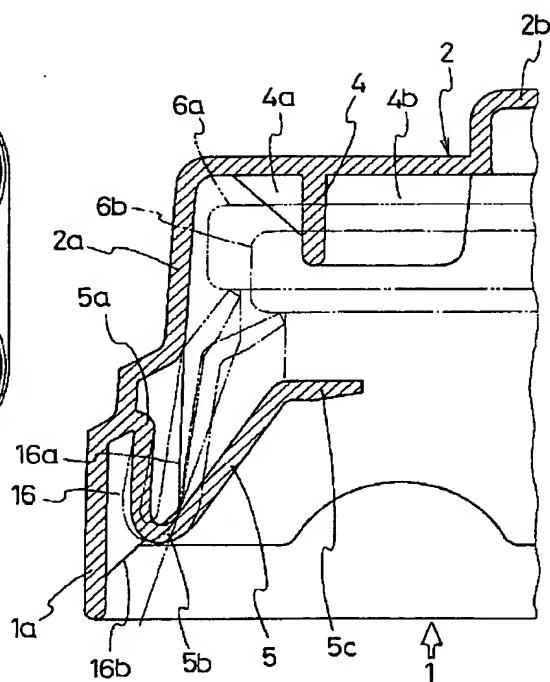
【図1】



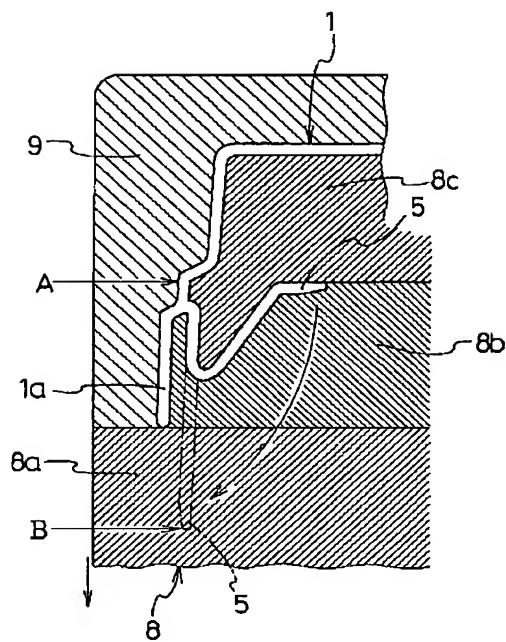
【図2】



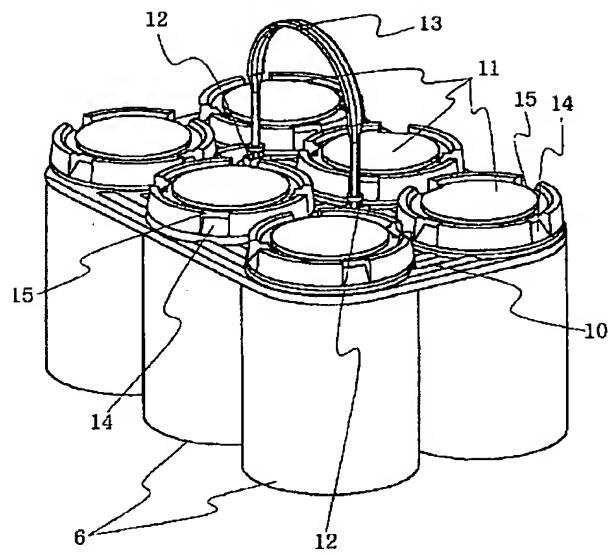
【図4】



【図5】



【図6】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、清涼飲料やビール等のアルコール飲料の飲料缶の運搬用保持具に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

複数本の飲料缶を一度に持ち運べるようこれらを束ねるものとして、従来、例えば図6に示す保持具がある。これは、材質として合成樹脂などを用いた薄板10による本体部から射出成形により複数個、図示の例では6個のキャップ状の保持部11を縦横に並列して膨出し、保持部11間に位置させて本体部に手提げバンドの係止部12を形成し、この係止部12に手提げバンド13の端部を挿入している。

【0003】

ところで、飲料缶6には同じ容量のものでも仕様によって缶の口縁の径が僅かに（例えば2mm程度）異なるものがあり、これら缶径の異なる飲料缶6に同一の保持具で対応できるように保持部11の周壁に切り起こしによる係止片14を4個所に設けている。

【0004】

この係止片14は飲料缶6の口縁の下部を側方から押圧するようにして口縁に引っ掛かり、これにより飲料缶6を係止して下方から吊り上げるもので、切り起こしを形成することで得られる弾力により開き幅が変化し、異なる缶径の飲料缶6に対応する。

【0005】

そして、飲料缶6を保持部11に装着するには飲料缶6の側部で係止片14を外側に押しやるようにしながら飲料缶6を保持部11内に挿入し、また、保持部11から飲料缶6を外すには、飲料缶6の口縁に係止片14の上端を係止したままの状態で係止片14を下方に押しやりながら飲料缶6を下方に押し下げる。

【0006】**【考案が解決しようとする課題】**

係止片14は保持部11の周壁の切り起こしにより形成されるものであるため、飲料缶6を装着しない状態で上方への折り曲がり力が付与されて上方に向かって突出している。このため、飲料缶6を装着する場合は、この折り曲がり力の作用方向に係止片14を曲げることになるから、容易に挿入できる。

【0007】

しかし、これとは反対に飲料缶6を保持部11から取り外す場合は、係止片14の折り曲がり力の作用方向と反対の方向にこれを折り曲げることになり、しかも、係止片14は飲料缶6を下方から吊支するだけの剛性を有するものであるから、容易には折り曲がらず、飲料缶6を外すにはかなりの力を必要とする。

【0008】

また、係止片14は飲料缶6を外す際に反対方向への無理な折り曲げ力が根元部に加わることで、その剛性のため、根元部が切断されることが多く、再使用できない。

【0009】

さらに、切り起こしによる欠損部15が生じ、この欠損部15が飲料缶6の口縁に位置するため、この部分から保持部11内にゴミや埃、虫などが侵入すると飲料缶6が汚損され、衛生上好ましくない。そして、欠損部15や係止片14の端縁は切り起こしによる切断面が露出し、使用時に指先を切るおそれがあり安全性の配慮に欠ける。

【0010】

そして、係止片14の個数が4個と少数であるために飲料缶6の周縁を各部均一に支承することが困難で、支承力に欠けるおそれがあり、係止片14が存しない箇所で飲料缶6に対して例えば横方向の力が加わると飲料缶6が保持部11から外れるおそれもある。

【0011】

本考案の目的は前記従来例の不都合を解消し、異なる缶径の飲料缶に対応するために係止片を設ける場合、飲料缶の装着、取り外しに大きな力を要せず、簡単かつ確実に着脱でき、装着後はしっかりと保持され強度的にも信頼でき、しかも、保持具の再使用が可能で、飲料缶の口縁の汚損も防止でき衛生的で、使用に際

して指先を切るなどのおそれもなく安全であり、射出成形による一体成形が可能で容易に製造できる飲料缶等の運搬用保持具を提供することにある。

【0012】

【課題を解決するための手段】

本考案は前記目的を達成するため、第1に、薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は、下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部とを有することを要旨とするものである。

【0013】

第2に、薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は、下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部とを有し、さらに前記U字形に湾曲する折り曲げ部の先端の立ち上がり部を略水平に折り曲げて全体を略S字形に形成したことを要旨とするものである。

【0014】

第3に、薄板状の本体部からキャップ状の保持部を複数個連続して膨出し、該保持部の内壁の周方向に、本体部および保持部と射出成形により一体に形成した弾性を有する折り曲げ自在な係止片を突設し、キャップ状の保持部で飲料缶等の上部を完全に覆う飲料缶等の運搬用保持具において、前記係止片は、等間隔で8個突設され、下方に向かう根元の折り曲げ部と、これに連成する上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部とを有し、さらに、前記U字形に湾曲する折り曲げ部の先端の立ち上がり部を略水平に折り曲げて全体を略S字形に形成したことを要旨とするものである。

【0015】

請求項1記載の本考案によれば、係止片を略S字形に形成することで、弾性が

付与されるから、飲料缶の装着時、取り外し時にこの弾性を利用すれば特に大きな力を必要とすることがなく、係止片に無理な力も加わらないから損壊のおそれもなく再使用が可能である。また、係止片は射出成形により一体に形成するから、保持部に欠損部が生じることなく、飲料缶の口縁の汚損を防止でき、衛生的であり、係止片形成のための切断面も生じないからこれで指先を切るおそれもなく安全性が向上する。

【0016】

請求項2記載の本考案によれば、前記作用に加えて、係止片のU字形に湾曲する折り曲げ部の先端の立ち上がり部を略水平に折り曲げることにより、飲料缶の口縁をこの係止片で押圧する際に、係止片の先端部が飲料缶の口縁の方向に自然に向いて確実に係止できる。

【0017】

請求項3記載の本考案によれば、前記作用に加えて、係止片はこれを保持部の内壁の周方向に等間隔で8個設けたから、飲料缶の口縁を緊密間隔で均等に保持でき大きな支承力が得られる。よって、保持時に飲料缶に例えは横方向の力が加わってもこれが保持部から外れるおそれはない。

【0018】

【考案の実施の形態】

以下、図面について本考案の実施の形態を詳細に説明する。図1は本考案の飲料缶等の運搬用保持具の実施形態を示す底面図、図2は同上平面図、図3は図1のC-C線断面図で、図中1は保持具の本体部を示し、この本体部1から複数個、図示の例では6個の保持部2を上方に膨出するとともに、保持部2間に位置させて本体部1から適宜間隔で手提げバンドの係止部3を膨出した。これら本体部1、保持部2、係止部3は射出成形により一体に形成する。

【0019】

本体部1は材質として例えばポリプロピレンなどの合成樹脂を用い、周縁に立ち下がり部1aを形成した断面略コ字形の薄板で形成するものであり、上面には補強用のリブ1bを縦横列に適宜間隔で複数本形成する。

【0020】

この本体部1から上方に膨出させて形成する保持部2は、本体部1の上面から円形のキャップ状に台形部2aを立ち上げ、この上面にさらに円形の突出部2bを形成するもので、台形部2aの上部下面から下方に向けて、飲料缶等の口縁に係止するストッパーとしてのリブ4を保持部2の周壁より一回り内側に位置させて輪状に設けた。

【0021】

このリブ4の外側に位置させて該リブ4を補強するとともに飲料缶などの口縁に当接して上下の振れを防止する三角形状の縦リブ4aを台形部2aから適宜間隔で複数個突設し（図4参照）、また、リブ4の内側にも該リブ4を補強する縦リブ4bを台形部2aから適宜間隔で複数個突設した。

【0022】

さらに本考案では台形部2aの下端、すなわち立ち下がり部1aの上端位置で、保持部2の内方に向けた該保持部2の内壁からその周方向に等間隔で8個の係止片5を突設する。この係止片5は本体部1および保持部2とともに射出成形により一体に形成するもので、弾性を有し、図4にも示すように根元部は下方に向けて湾曲する折り曲げ部5aに形成し、これに連成させて上方に向けてU字形に湾曲する折り曲げ部5bを設けて全体を略S字形に形成し、該折り曲げ部5bの先端の立ち上がり部5cを略水平に折り曲げた。

【0023】

さらに、係止片5の両側に位置させて飲料缶6の挿入時の挿入方向のガイドとなるリブ16を保持部2の内壁に突設した。このリブ16は内側を垂直部16aに、下部を外側にいくにしたがい下方に傾斜する傾斜部16bに形成したものである。

【0024】

係止片5の製作方法は前記のように射出成形によるものであるが、図5に示すように係止片5を成形する部分はコア側の金型8を係止片5の形成部と立ち下がり部1aの先端部の個所で3つの第1、第2、第3の金型8a、8b、8cに分割し、金型8、9を脱型するときにコア側の第1の金型8aを係止片5の長さ分だけまず下方に移動し、次いで第2の金型8bを図においてAの位置からBの位

置まで下方に移動し、さらに、係止片5を下方に押しやりながら第3の金型8cを下方に外す。その後、第3の金型8cを上に戻して係止片5を上方に押しやり、根元部のヒンジ強度を得、この部分を円弧状の折り曲げ部5aとする。

【0025】

係止片5が折り曲げやすいように、また、容易に復位するように、折り曲げ部5aの近傍に、図示は省略するが切欠きを設けてよい。

【0026】

手提げバンド7の係止部3は示すように一端を閉塞し、他端を開口した断面逆U字形のトンネル状に形成され、この中空の内部に、硬質の合成樹脂製で、U字形の細長帯状に形成した手提げバンド7の端部を挿入する。

【0027】

飲料缶6を保持具に取り付けるには、保持部2の台形部2a内に下方から飲料缶6の上部を差し込めば、飲料缶6の上部で係止片5が押し上げられ、図4の鎖線で示すように係止片5が折り曲げ部5bでさらに上方に折り曲がり、先端の立ち上がり部5cが飲料缶6の周壁に圧着した状態となって、係止片5の上部が飲料缶6の口縁を下方から吊り上げる。

【0028】

飲料缶6を挿入するときは、飲料缶6の口縁がこのリブ16の傾斜部16bの下端に最初に当接するから、この傾斜にそって飲料缶6を上方に押し込めば、垂直部16aにそってさらに押し込まれて保持部2内の所定位置に正しくセットされる。

【0029】

また、飲料缶6の口縁をこの係止片5で係止して押圧する際に、係止片5が図4に示すように折り曲げ部5a, 5bを介して上方に折り曲げられたとき、先端の立ち上がり部5cが飲料缶6の口縁の方向に自然に向くから確実に係止できる。

【0030】

そして、係止片5は保持部2の内壁に周方向に等間隔で8個設けたから、飲料缶6の口縁は緊密間隔で各部均等に保持され、大きな支承力が得られ、運搬時に飲料缶6に横方向の力が加わっても容易には外れない。

【0031】

この場合、飲料缶6の缶径に大小があつても係止片5は折り曲げ部5a, 5bによる弾力のクッション作用によって開き幅が自在に変化して同じように飲料缶6の周壁に圧接し、その上端が飲料缶6の口縁を下方から吊支する。そして、図4に2点鎖線で示すように缶径の大きい飲料缶6aの場合は、係止片5の折り曲げ部5bの折り曲がりの角度が大きくなり、飲料缶6aの口縁の外側が台形部2aの周壁に当接し、この周壁部分がストッパーとして作用し、該周壁と係止片5とで保持部2内に保持される。

【0032】

一方、缶径の小さい飲料缶6bの場合は、図4に1点鎖線で示すように係止片5の折り曲がりの角度が小さくなり、飲料缶6aの口縁の内側が円弧状のリブ4の外側に当接し、このリブ4がストッパーとして作用し、該リブ4と係止片5とで保持部2内に保持される。さらに、縦リブ4aが缶径の小さい飲料缶6bの口縁に斜め上部から当接し、上方の振れが阻止され、口縁の下部に当接して下方への移動を阻止する係止片5とにより所定位置に係止される。

【0033】

以上のようにして6個の飲料缶6を保持部2で係止し、手提げバンド7を垂直に引き上げて本体部1を持ち上げれば、6個の飲料缶6は保持部2で吊り下げられた状態で運ばれる。この場合、保持部2には欠損部がないから、保持具内にゴミや埃が侵入することなく、飲料缶6の汚損のおそれがない。

【0034】

飲料缶6を保持部2から外すには、飲料缶6の下部を持ってこれを引き下ろせば、係止片5は飲料缶6の口縁に係止したままの状態で飲料缶6と一体となって下方に引き下ろされる。このとき、係止片5は折り曲げ部5bの部分で折り曲がりながら引き下ろされ、飲料缶5の口縁から外れる。

【0035】

かかる係止片5の上方または下方への折り曲げは、係止片5の折り曲げ部5aの近傍に切欠きを形成した場合は、折り曲がりやすくなるから僅かな力で行うことができ、また、飲料缶6を外した後、弾性により現位置に容易に復位する。そ

して、折り曲げ部5aは射出成形による成形時にヒンジ力に強度を与えてあるから、現位置に復位した後の再使用が可能となる。

【0036】

そして、保持部2への飲料缶6の着脱の際、係止片5の周縁に切断の端面はないから、係止片5によって指先などを切る心配もない。

【0037】

【考案の効果】

以上述べたように本考案の飲料缶等の運搬用保持具は、異なる缶径の飲料缶に対応するために係止片を設ける場合、飲料缶の装着、取り外しに大きな力を要せず、所定位置に正確かつ簡単に着脱でき、装着後はこの位置に確実に保持され、飲料缶に横方向に力が加わっても容易には外れず、強度的にも信頼でき、しかも、保持具の再使用が可能で、飲料缶の口縁の汚損も防止でき衛生的であり、係止片により指先を切るなどの心配もなく安全なものである。また、係止片が内側に突出する形状であっても、射出成形による一体成形が可能で、製造も容易である。